



七つ星

4月号

令和8年4月8日(水)
〒337-0012 さいたま市
見沼区東宮下1-1-1
電話 048-685-0603

輝く笑顔 誇れる学校 ～さいたま市立七里中学校 学校だより～

新年度のスタートにあたって ～しなやかに折れない力～

校長 河合 裕

桜花満開の好季節です。本日桜の花びらが舞う中、入学式を挙行し希望に満ちた新入生80名を迎え、2年生76名、3年生72名、合計228名、教職員41名とともに、令和8年度がスタートしました。本年度も保護者・地域の皆様、関係諸機関と連携を密にし、全教職員一丸となり教育活動を進めてまいります。引き続き、今までと同様に温かなご支援とともに、本校教育活動にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



さて、旬を迎えているタケノコ(筍)の漢字(「竹かんむり」に「旬」)のいわれは「地上に出てから10日間(一旬=いちじゅん)で竹になる」という驚異的な成長速度に由来しているそうです。古くから成長の早さと直立する姿から、子どもの健やかな成長や立身出世の願いが込められることもあります。そして成長すると、大きなものはわずか1、2か月の短い間に15～20mほどの竹になります。しかし、太さが15cmくらいしかない細い植物であるにも関わらずなかなか折れません。それは、節があるからとだと言われています。成長に伴って節をしっかりとすることで、しなやかに風雨に耐える強さを備えているのです。

この「しなやかに折れない」という特徴は、私たちが生活する上で、とても大事なことだと思います。特に変化が激しく、予測が困難な現代社会を生き抜くためには「折れない硬さ」ではなく、「しなやかに戻る力(竹のようなイメージ)」が求められ、「ストレスや逆境、困難な状況に直面した際に、しなやかに適応し、回復する力」すなわち「心の回復力」「弾力性」「柔軟な適応力」が必要不可欠であると私は思います。これを心理学では「レジリエンス」と言うそうです。そしてレジリエンスは教育や研修を通じて後天的に鍛えることが可能だと言われています。そこでレジリエンスを高める方法としてアメリカ心理学会が提唱している例を紹介します。①良好な人間関係を維持する。②危機を乗り越えられない問題と見なさない。③変えられない状況を受け入れる。④現実的な目標を立て、行動する。⑤自己発見の機会を探す。

新年度のスタートにあたり、生徒の皆さんは、様々な思い(希望・期待・不安・心配)を抱えていることと思います。しかし、今日という進学・進級の成長の日に、竹のように節をしっかりとつくり、そして「しなやかに折れない力」を身につけて、この一年で更に大きく成長することを期待しています。

裏面には本年度の学校教育目標等を掲載いたしました。時代・施策(法令)・実態に即した意識・思考・行動の改革を進めてまいります。どうぞよろしくお願いたします。